



# 平成25年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成24年11月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社総医研ホールディングス  
コード番号 2385 URL <http://www.soiken.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 小池 真也

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長

(氏名) 田部 修

TEL 06-6871-8888

四半期報告書提出予定日 平成24年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年6月期第1四半期の連結業績(平成24年7月1日～平成24年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第1四半期	592	72.3	71		74		66	
24年6月期第1四半期	343	3.0	66		66		52	

(注) 包括利益 25年6月期第1四半期 69百万円 ( %) 24年6月期第1四半期 51百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年6月期第1四半期	254.13	245.64
24年6月期第1四半期	200.40	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年6月期第1四半期	4,164	3,956	94.7
24年6月期	4,114	3,887	94.1

(参考) 自己資本 25年6月期第1四半期 3,944百万円 24年6月期 3,873百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期		0.00		0.00	0.00
25年6月期					
25年6月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年6月期の連結業績予想(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	900	22.8	20		20		10		38.33
通期	1,800	16.2	50		60		30		115.00

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

25年6月期1Q	261,796 株	24年6月期	261,796 株
25年6月期1Q	918 株	24年6月期	918 株
25年6月期1Q	260,878 株	24年6月期1Q	260,878 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中であります。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
( 1 ) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
( 2 ) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
( 3 ) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2 . 四半期連結財務諸表 .....	4
( 1 ) 四半期連結貸借対照表 .....	4
( 2 ) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第 1 四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第 1 四半期連結累計期間 .....	6
( 3 ) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
( 4 ) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
( 5 ) セグメント情報等 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間の我が国の経済は、震災からの復興需要の本格化による底上げはあったものの、円高や海外景気の減速を背景として輸出が低調に推移したほか、民間消費の動向にも陰りが見える等、景気の停滞感が強まりました。

当社グループの主な事業領域の一つである特定保健用食品（以下「トクホ」といいます。）業界におきましては、血圧や血糖値といった一般的な健康表示のトクホの開発に一巡感が生じたことに加え、イソフラボンやアガリクスの安全性に関する問題が話題になり開発リスクが顕在化するなかで、トクホの主な開発主体である大手の食品・製薬企業等の開発動向が鈍化し、新規の開発案件が減少する傾向が続いております。

このような事業環境の下、当社グループでは、評価試験事業等の食品の開発支援の事業から、健康補助食品事業等の自社製品の開発及び販売並びにマーケティング事業や医薬臨床研究支援事業等のエビデンス構築及びマーケティング支援等の事業への事業構造の転換を図っております。

当社グループでは、このような事業戦略の実現に向けて適正な経営資源の配分を行うとともに、コストの削減にも徹底して取り組むことにより、早期に業績の回復、拡大を図ってまいります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (生体評価システム)

生体評価システム事業のうち評価試験事業におきましては、健康補助食品及びヘルスケア機器の有効性に関する臨床評価試験の受託手数料等101百万円（前年同期比120.4%増）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高31百万円（前年同期比39.7%減）、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は36百万円（前年同期末比63.4%減）となりました。

生体評価システム事業のうちバイオマーカー開発事業におきましては、売上（前年同期は0百万円）、受注高（前年同期は0百万円）及び当第1四半期連結会計期間末の受注残高（前年同期末はなし）は何れもありませんでした。

生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業におきましては、主に糖尿病領域及び循環器病領域の医師主導型臨床研究の支援業務の受託手数料等103百万円（前年同期比51.4%増）の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高15百万円（前期は契約条件等の変更により36百万円の減少）、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は750百万円（前年同期末比131.8%増）となりました。

これらの結果、生体評価システム事業の業績は、売上高204百万円（前年同期比78.5%増）、営業利益107百万円（前年同期比113.6%増）となりました。

#### (ヘルスケアサポート)

ヘルスケアサポート事業は、特定保健指導の受託を中心として、企業における社員の健康管理・増進のニーズや個人の健康意識の高まり等に関連した様々なサービスを健康保険組合等に提供する事業であり、生活習慣病の専門医から成る組織である一般社団法人専門医ヘルスケアネットワークと共同で事業展開しております。当第1四半期連結累計期間におきましては、特定保健指導、被扶養者を対象とした特定健康診査のサポート、糖尿病の重症化予防サービス、レセプト解析の受託手数料等35百万円（前年同期比202.1%増）の売上計上を行いました。

また、受注状況につきましては、受注高35百万円（前年同期比169.6%増）、当第1四半期連結会計期間末の受注残高はありませんでした（前年同期末はなし）。なお、この事業の受注高は、主に特定保健指導の実績等に応じて事後的に決まるものでありますので、契約締結時点ではなく、当該実績等が確定した時点で計上しております。

この結果、ヘルスケアサポート事業の業績は、売上高35百万円（前年同期比202.1%増）、営業利益4百万円（前年同期は13百万円の営業損失）となりました。

#### (化粧品)

化粧品事業におきましては、前連結会計年度より、従来の期間限定のキャンペーンを中心とした販売戦略から、定期購入顧客層の拡大や既存顧客とのコミュニケーションの強化によりコアとなる顧客基盤を拡充し、安定的な販売の増加を目指す方向のプロモーションへの転換を推進しております。通信販売部門においては、平成23年10月より開始した新たな定期購入プランである「Bb定期便」の奏功により定期購入顧客が増加し、売上高は93百万円（前年同期比4.3%増）となりました。一方、百貨店等向けの卸売部門の売上高は、営業活動に注力した結果、58百万円（前年同期比15.4%増）となりました。

この結果、化粧品事業の業績は、売上高152百万円（前年同期比8.3%増）、営業利益0百万円（前年同期は33百万円の営業損失）となりました。

#### (マーケティング)

マーケティング事業におきましては、医薬品等のマーケティング支援業務の受託手数料等について0百万円（前

年同期比88.5%減)の売上計上を行いました。

この結果、マーケティング事業の業績は、売上高0百万円(前年同期比88.5%減)、営業損失は4百万円(前年同期は3百万円の営業損失)となりました。

(健康補助食品)

健康補助食品事業におきましては、平成21年3月より、「疲労定量化及び抗疲労食薬開発プロジェクト」から生まれた製品である飲料「イミダペプチド」の販売を開始し、平成23年3月からは、飲料に加え、ソフトカプセルタイプの「イミダペプチド ソフトカプセル」を販売しております。また、当第1四半期連結累計期間には、新商品として、平成24年7月に錠剤タイプの「イミダペプチド プレミアム」、平成24年8月にスポーツドリンクタイプの「イミダペプチド アスリート」を発売いたしました。

当第1四半期連結累計期間の販売は、前連結会計年度の第4四半期連結会計期間に「イミダペプチド」が複数のテレビ番組に取り上げられたことを契機として売上規模が拡大した勢いを継続し、また、新商品の発売の効果もあり、好調に推移しました。

この結果、健康補助食品事業の業績は、売上高197百万円(前年同期比170.9%増)、営業利益は11百万円(前年同期は13百万円の営業損失)となりました。

これらに加えまして、セグメント間取引の消去や全社費用による営業損失は48百万円(前年同期は52百万円の営業損失)となりましたので、当第1四半期連結累計期間の売上高は592百万円(前年同期比72.3%増)、営業利益は71百万円(前年同期は66百万円の営業損失)、経常利益は74百万円(前年同期は66百万円の経常損失)、四半期純利益は66百万円(前年同期は52百万円の四半期純損失)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて49百万円増加(1.2%増)し、4,164百万円となりました。これは主に、仕掛品が12百万円、原材料及び貯蔵品が12百万円減少したものの、受取手形及び売掛金が29百万円、商品が39百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて20百万円減少(8.8%減)し、207百万円となりました。これは主に、未払法人税等が4百万円増加したものの、買掛金が4百万円、前受金が19百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて69百万円増加(1.8%増)し、3,956百万円となりました。これは主に、四半期純利益を66百万円計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の連結業績につきましては、足元の受注状況等から医薬臨床研究支援事業及びヘルスケアサポート事業の増収が見込まれること、健康補助食品事業も「イミダペプチド」がテレビ番組に取り上げられたことを契機として増収傾向で推移していること、取締役報酬の減額や外注費用の見直し等を通じて引き続き費用削減に取り組むこと等を主因としまして、増収及び利益計上への転換を予想しております。

当第1四半期連結累計期間の業績は、健康補助食品事業の売上高が計画を上回り、その他の事業につきましては概ね計画どおりの推移となりました。今後の健康補助食品事業の売上推移には不確実性があることから、現時点においては平成24年8月16日に発表いたしました業績予想の前提となる計画に重要な変動はなく、当該業績予想に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,783,533	1,680,386
受取手形及び売掛金	210,707	239,973
有価証券	900,000	1,000,000
商品	98,589	137,678
仕掛品	82,186	69,514
原材料及び貯蔵品	45,063	32,517
その他	34,292	44,492
貸倒引当金	3,412	5,833
流動資産合計	3,150,961	3,198,730
固定資産		
有形固定資産	18,732	17,533
無形固定資産		
その他	35,268	32,559
無形固定資産合計	35,268	32,559
投資その他の資産		
投資有価証券	862,849	869,149
長期未収入金	35,232	35,232
その他	46,844	46,247
貸倒引当金	35,232	35,232
投資その他の資産合計	909,694	915,397
固定資産合計	963,695	965,489
資産合計	4,114,656	4,164,219
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	50,816	46,380
未払法人税等	8,713	13,572
ポイント引当金	3,952	3,518
前受金	70,818	51,809
その他	93,097	91,399
流動負債合計	227,398	206,681
固定負債		
その他	-	696
固定負債合計	-	696
負債合計	227,398	207,377
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,836,021	1,836,021
資本剰余金	2,674,070	2,674,070
利益剰余金	294,935	228,638
自己株式	199,940	199,940
株主資本合計	4,015,216	4,081,513
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	142,133	137,411
その他の包括利益累計額合計	142,133	137,411
少数株主持分	14,175	12,740
純資産合計	3,887,258	3,956,841
負債純資産合計	4,114,656	4,164,219

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)
売上高	343,583	592,015
売上原価	106,558	192,850
売上総利益	237,024	399,164
販売費及び一般管理費	303,681	327,402
営業利益又は営業損失( )	66,657	71,762
営業外収益		
受取利息	885	2,479
その他	331	174
営業外収益合計	1,217	2,654
営業外費用		
投資有価証券評価損	850	-
その他	1	0
営業外費用合計	851	0
経常利益又は経常損失( )	66,291	74,416
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	66,291	74,416
法人税、住民税及び事業税	841	10,908
法人税等調整額	13,731	1,354
法人税等合計	12,889	9,554
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失( )	53,401	64,861
少数株主損失( )	1,120	1,435
四半期純利益又は四半期純損失( )	52,281	66,296

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	53,401	64,861
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2,250	4,721
その他の包括利益合計	2,250	4,721
四半期包括利益	51,151	69,583
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50,031	71,018
少数株主に係る四半期包括利益	1,120	1,435

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	マーケ ティング	健康補助 食品	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	114,479	11,851	140,528	2,165	73,058	342,083	1,500	343,583
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	681	681	681	-
計	114,479	11,851	140,528	2,165	73,739	342,764	818	343,583
セグメント利益 又は損失( )	50,158	13,425	33,981	3,021	13,804	14,074	52,582	66,657

(注)1 外部顧客への売上高の調整額1,500千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額 52,582千円には、全社費用 63,082千円、セグメント間取引  
消去9,681千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であり  
ます。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						調整額 (注)1 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	マーケ ティング	健康補助 食品	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	204,315	35,800	152,211	250	197,938	590,515	1,500	592,015
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	120	-	739	859	859	-
計	204,315	35,800	152,331	250	198,677	591,374	640	592,015
セグメント利益 又は損失( )	107,141	4,663	775	4,682	11,914	119,812	48,050	71,762

(注)1 外部顧客への売上高の調整額1,500千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額 48,050千円には、全社費用 61,550千円、セグメント間取引  
消去12,859千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であり  
ます。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。